

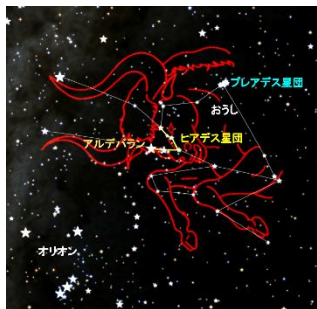


ジオスペース館だより

星図はステラナビゲーター11を使用して作成

★ 今月の星もよう ★

あけましておめでとうございます。冬の星座の明るい星々が、よく見える季節になりました。1月中旬の夜8時頃、夜空を見上げると、東から南の空にかけて、冬の星座が広がっています。



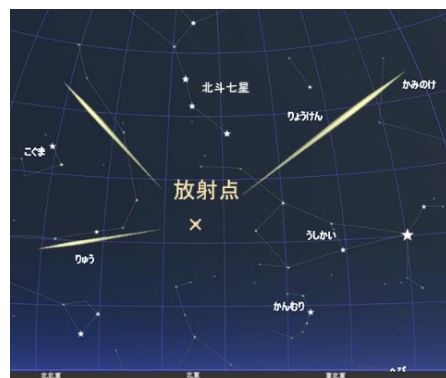
冬は1年の中で、明るい1等星が1番多く見られる季節です。東から、1等星をたどってみると、まずは、こいぬ座のプロキオン、おおいぬ座のシリウス、オリオン座のベテルギウス。そして、この3つの1等星でつくる三角形を【冬の大三角】と呼んでいます。

この他、オリオン座のリゲル、おうし座のアルデバラン、ぎよしゃ座のカペラ、ふたご座のポルックスと、1等星が全部で7個もあります。では、おうし座に注目してみましょう。オレンジ色に輝くアルデバランは、おうしの右目に当たり、顔の部分にはVサインのような形をした「ヒアデス星団」があります。また、おうしの肩の辺りに白くぼんやりと見えるのは「プレアデス星団」です。日本では《すばる》と呼ばれ、昔から親しまれてきました。今から千年も前の平安時代に、清少納言が書いた「枕の草子」の中には「星はすばる。ひこぼし。ゆふづつ。よばひ星。すこしをかし」と、しみじみと美しく感じる星の1番に、《すばる》をあげています。また、《ひこぼし》は「わし座」のアルタイル、《ゆふづつ》は宵の明星・金星、《よばひ星》は流れ星のことで、千年もの昔からその美しさで人々を魅了してきた《すばる》。肉眼で見えるので、ぜひ探してみてください。

★ しぶんぎ座流星群が極大！ ★

毎年お正月早々に、三大流星群の一つ「しぶんぎ座流星群」が極大（活動が最も活発になる時期）を迎えます。しぶんぎ座流星群は、活動が活発な期間が短く、その上、年によって、流星の出現数が多かったり少なかったりと、変化します。今年の極大は3日の夜半から4日の未明にかけてで、観察時間としてはよいのですが、一晩中月明かりがあるため、観察のコツは、月が視界に入らない方向を見ることです。最大で1時間に20個くらいの流星が見られると、予想されています。放射点はりゅう座とうしかい座の境界辺りで、流星は放射点を中心に空全体に現れます。

4日未明、放射点は北斗七星の下辺りに



なお、しぶんぎ座という星座は古い名前で、全天88星座の中にはなく、しぶんぎ座があった領域は、現在、りゅう座やその周辺ですが、しぶんぎ座流星群という名称は、2009年、国際的に正式名称と決められました。

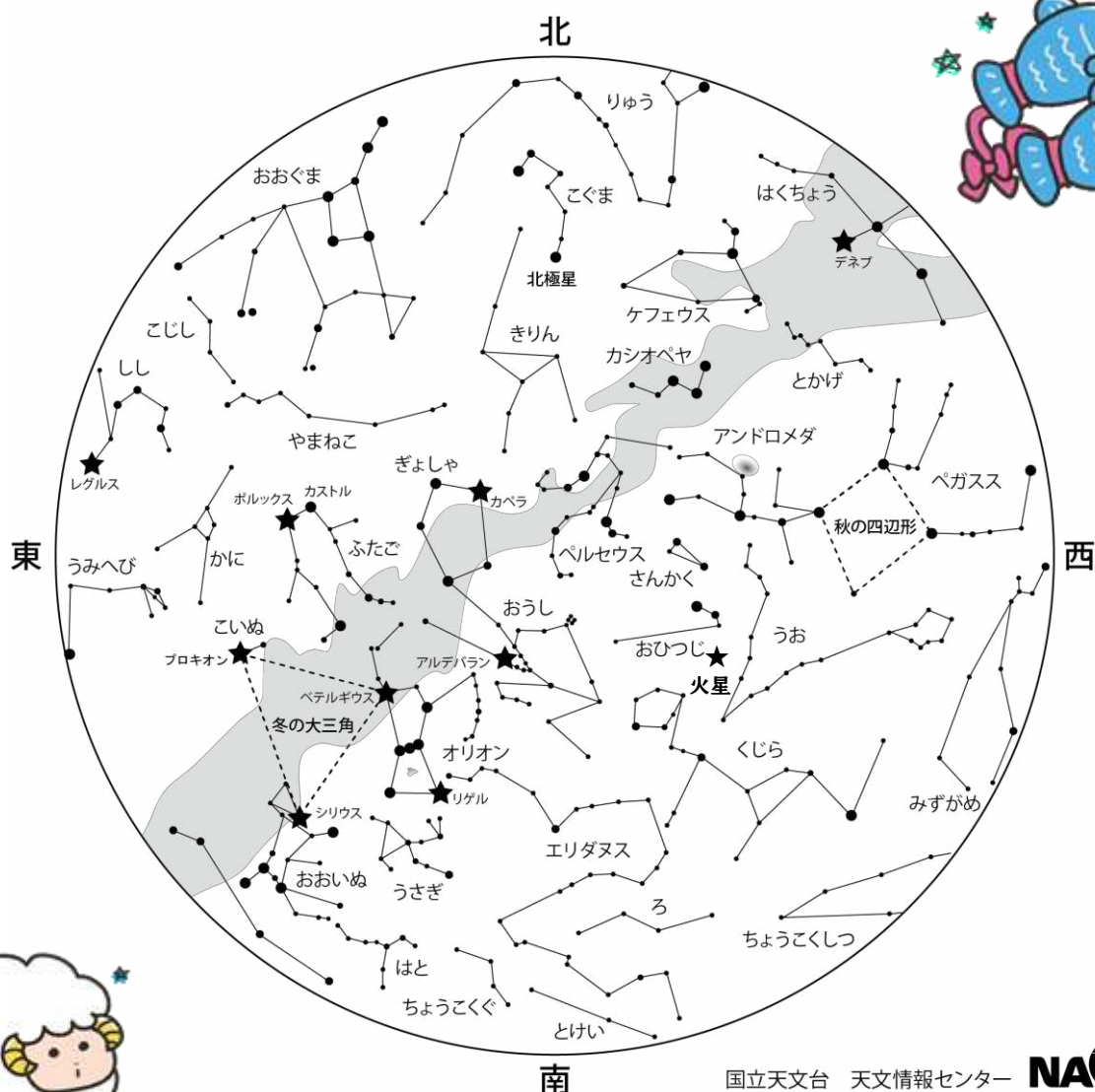
★ 1月のプラネタリウム内容につきましては、別刷りの「投影案内」をご覧ください ★

★ プラネタリウムのお休み 1/1(金)～4(月)、12(火)、18(月)、20(水)、25(月)

★1/10(日)は星兄のプラネタリウム笑(ショー)のため。午前みの投影になります。

★新型コロナウイルス感染症対策で、入場定員を減らして投影しています。

1月上旬午後9時頃の星空



国立天文台 天文情報センター **NAOJ**

★ 1月上旬の主な天文現象

2日(土)	ちきゅう きんじつてんつうか 地球が近日点通過	6日(水)	かげん 下弦
3日(日)	りゅうせいぐんきょくたい しぶんぎ座流星群極大	10日(日)	すいせい もくせい どせい にちぼつご 水星と木星、土星が日没後、 西の低空で大接近
5日(火)	しょうかん 小寒	13日(水)	しんげつ 新月

★ 宇宙ステーション(豊川での主なデータ 1/1~15) ※ 下記時刻は、予想値です

◇	1月 7日(木)	[見やすさ ◎]	6:08	北西	~	6:14	東南東
◇	1月 8日(金)	[見やすさ ○]	5:22	北	~	5:26	東
◇	1月 9日(土)	[見やすさ ◎]	6:09	西北西	~	6:15	南南東
◇	1月10日(日)	[見やすさ ◎]	5:24	西北西	~	5:28	南東

豆知識：国際宇宙ステーション (ISS) は、明るい星が動いているように見えます。
飛行機のような赤緑ランプの点滅はありません。